



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

K E I O
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol. 23
November 2024

ご自由に
お持ちください



『切らずに治す』負担の小さな内視鏡治療

内視鏡センターでは高度な医療技術とチーム医療で
患者さんに負担の少ない診断・治療を提供します。

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

高度な診療水準を誇る 低侵襲内視鏡治療センター



内視鏡センター 医師
かとう もとひこ
加藤 元彦

後のトラブルが多いことが知られています。慶應義塾大学病院内視鏡センターでは精密な内視鏡切除、術後の創部の縫合閉鎖法などの先進的な取り組みによりその治療成績は劇的に向上しており、全国各地からの紹介症例を受け入れています。このように高度な内視鏡診療を発揮して多くの患者さんの内視鏡診療の『最後の砦』としての役割を担っています。

高度な内視鏡治療を可能にする チーム医療による集学的治療アプローチ



先に述べたように内視鏡診療は高度化しており、多職種、診療科、グループの連携が不可欠です。慶應義塾大学病院内視鏡センターでは治療の術前、術中、術後の管理をシームレスに行える体制を整えています。

内視鏡治療の術前の評価は診療クラスター「消化器センター」(P.6)におけるカンファレンスを通して内視鏡医、外科医、放射線科医のコンセンサス形成にもとづき患者さんに適した治療法を決定しています。また、難易度の高い治療やリスクの高い患者さんの治療前には、麻酔科医によるリスク評価も行っています。



内視鏡治療術中は看護スタッフの介入により患者さんの状態をモニタリングしています。術後はリカバリールームで十分な観察を行っています。内視鏡機器の保守点検、治療時の介助には内視鏡技師が携わっております。

内視鏡切除後の偶発症が高い十二指腸ESDでは内視鏡治療グループの治療の直後に胆膵グループによる胆管膵管のドレナージ術を実施しており、また、全層切除術は内視鏡医、外科医の協力のもとに実施しております。このように多職種、診療グループの密な連携により高度な内視鏡診療を可能にしております。

内視鏡は文字通り「身体の内부를見る」医療機器で、約150年前に大道芸人の吞剣師が硬い内視鏡を飲み、胃の内部を観察したことが近代の内視鏡診療の先駆けです。その後の技術の進歩により内視鏡が診断可能な臓器はより身体の深部である大腸や小腸、さらには胆膵などに広がり、用途も観察や組織採取からポリプ切除、さらには臓器の切除と再建など外科手術に匹敵するような高度なことまで可能になっています。

戦後、当時の国民病であった胃癌の克服のために内視鏡医、技術者の不断努力によってわが国では内視鏡診療の水準が飛躍的に進歩し、この50年ほど日本の内視鏡は世界をリードしてきました。消化管癌が根治する可能性の高い、壁深達度が粘膜下層までにとどまる『早期癌』の概念、リアルタイムに病理診断に迫るような診断を可能にした拡大内視鏡と画像強調内視鏡技術(特殊な波長の光を用いる診断法)、病変の部位・形態・大きさにかかわらず確実切除を可能にする内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、約700件の内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)を実施する国内屈指のハイボリュームセンターです。慶應義塾大学病院の特徴として十二指腸腫瘍に対する内視鏡切除の症例数がきわめて多いことが挙げられます。前述のようにわが国で発展した内視鏡治療ですが、十二指腸の内視鏡治療は技術的にきわめて困難で、術中術

除を可能にする内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)はいずれも日本において提唱、開発されたもので、わが国の消化器管癌の治療成績はきわめて良好であり、早期癌については臓器を温存することで術後の生活の質の低下を最小限にして高い根治性を実現することができます。また近年では腫瘍の発見をサポートする人工知能(AI)も開発、2024年に保険収載され日常診療で使用する事ができるようになっていきます。

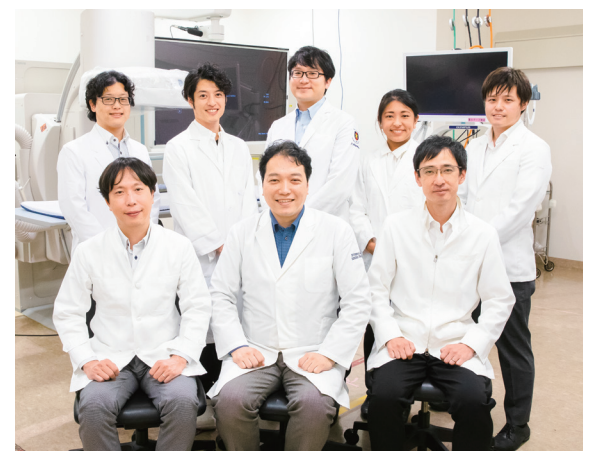
慶應義塾大学病院内視鏡センターは年間約2万件の内視鏡検査、600件を超える内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、約700件の内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)を実施する国内屈指のハイボリュームセンターです。慶應義塾大学病院の特徴として十二指腸腫瘍に対する内視鏡切除の症例数がきわめて多いことが挙げられます。前述のようにわが国で発展した内視鏡治療ですが、十二指腸の内視鏡治療は技術的にきわめて困難で、術中術

内視鏡を介した 消化器疾患チーム医療



消化器内科診療において今や内視鏡学は診断・治療・研究のあらゆる面において切っても切り離せない分野となっており、内視鏡センターはさまざまな領域の内視鏡診療を統括するセンターであり、消化器内科はその中でも特に腫瘍、機能、胆膵、炎症分野において連携をとり診療にあたっています。内視鏡センターでは常に診断や治療分野における新規内視鏡技術の開発・導入を行っており、これにより最難関とされる十二指腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術に代表される低侵襲治療に積極的に取り組み、世界でもトップクラスの治療成績を収めております。これらの技術を元に、近年では消化器内科上部消化管グループが連携し、内視鏡的筋層切開術による機能性消化管疾患に対する内視鏡治療や、粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術といった先進的な医療にも取り組んでおります。消化器内科肝胆膵グループは、これまでの経乳頭的アプローチに留まらず、近年では超音波内視鏡を用いた胃胆管瘻孔形成術に代表される高度な技術を要する胆膵領域のドレナージ治療やステント

治療を積極的に行っております。消化器内科炎症性腸疾患グループも内視鏡センターと共に、消化管の炎症評価のみならず、特殊光観察を併用することでこれまでにない再燃予測、炎症性発癌の早期診断を行い、さらに特殊技術を要する小腸内視鏡も積極的に実施し、ブラックボックスとされていた小腸疾患の病態解明に取り組んでおります。消化器内科では内視鏡センターと連携し先進的な内視鏡診断・低侵襲治療を提供するとともに、未だ治療法が確立しない消化器疾患の病態解明にワンチームで取り組んでおります。



消化器がん診療において内視鏡は欠かせない検査です。治療前診断においては、病気の範囲や手術の術式選択の重要な指標となります。術後においては、手術において吻合や閉鎖した部位の観察のみならず、温存された臓器における異時性多発がんの早期の拾い上げを目的として、定期的な内視鏡検査が行われます。さらに、手術術式においても、昨今、内視鏡の併用が積極的に行われていま



す。胃や十二指腸の病変において行われる腹腔鏡内視鏡合同手術においては、手術室で内視鏡医と外科医が合同で、消化管の内腔と腹腔内から同時に病変の観察・切除を行うことで、切除範囲を最小限に、かつ安全に治療することが可能となっています。診断時に腸閉塞をきたしている大腸がんに対しては、手術を安全に行うために手術前にステントを留置し腸閉塞を解除することがあります。炎症性腸疾患の患者さんでは、手術中に全小腸の内視鏡検査を併用し、病変の広がりをはっきりと確認し、切除範囲を決定しています。胆管や膵臓の悪性腫瘍では、腫瘍によって胆汁や膵液の流れが阻害され、黄疸や胆管炎、膵炎が起ることがあります。この治療として、内視鏡を用いたドレナージやステントの挿入を迅速に行うことが大切で、これにより患者さんの全身状態が改善され、より安全に手術を行うことが可能になります。このように、外科手術と内視鏡診断・治療は密接にかかわっており、外科チームも内視鏡センターの一員として日々診療にあたっております。



内視鏡と手術の効果的な
併用による患者さんの
負担軽減をめざして



リハビリテーションのエキスパート “良く生きる”を支える療法士たち

当院のリハビリテーション科は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つの異なる専門職が、それぞれの特性を発揮しながら一つのチームとして活動しています。治療・発症後にリハビリテーションを提供するのはもちろんのこと、より良い状態で治療に臨んでいただくべく、予防的な介入も行っています。

理学療法とは、身体機能回復を運動療法を通じて支援する分野です。超急性期から退院後まで、患者



さんに寄り添った丁寧なリハビリテーションの提供を心掛けて取り組んでいます。多職種チームと連携し、科学的根拠に基づいた治療を実践し、次世代を担う理学療法士の育成にも尽力しています。

作業療法とは、主に心身機能回復を作業を通して支援する分野です。日常生活動作練習を中心に、趣味や仕事や家事等の日常生活関連動作練習も行っています。手の外科術後や乳がん術後のリンパ浮腫、



頭頸部がん術後の副神経麻痺といったリハビリテーションも行っています。

言語聴覚療法は、飲み込みやコミュニケーションの障害を支援する分野です。摂食嚥下や高次脳機能障害へのアプローチの他、がん関連では多様な疾患の治療前後の介入に取り組んでおり、覚醒下手術や消化器がん周術期に力を入れています。

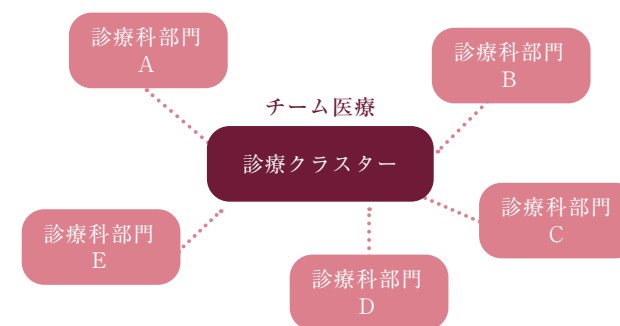
私たち療法士は、我々の手を通して患者さんに寄り添いながら、予防から慢性期まで patient journey を支え続けてまいります。



複数の診療科・職種が連携して チーム医療を提供する診療クラスター

慶應義塾大学病院では、「各科の分立を防ぎ、基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く、全員挙(こぞ)って医学の研鑽に努める」という、北里柴三郎初代病院長の精神のもと、開院当初から診療科同士の垣根がない治療を行うことを信条としております。より良い治療を患者さんに提供することを目的として、難治性疾患や稀少疾患、診療に高度な技術を要する疾患に対する治療を行う「診療クラスター」を2016年度よりスタートさせました。従来の内科や外科といった診療科の枠組みを超えて、複数の診療科の専門家がメディカルスタッフとともに横断的・複合的に連携して高度な医療を行っています。

診療クラスターの1つである「臓器移植センター」では、泌尿器科で行う腎臓移植、外科で行う肝臓移植や小腸移植を診療科横断的にを行っています。そもそも臓器移植にはさまざまな診療科がかかわる面があり、このように診療科の垣根なくノウハウを共有し円滑な連携を行うことは、より安全な臓器移植を行うことにもつながると考えています。ほかにも、指定難病である潰瘍性大腸炎やクローン病の治療を消化器内科・外科、小児外科、小児科、産婦人科が連携して行う「IBDセンター」、



パーキンソン病に対して神経内科、脳神経外科、精神・神経科、リハビリテーション科などから多職種が参加し、チーム医療で治療にあたる「パーキンソン病センター」など、2024年10月現在、31の診療クラスターがさまざまな疾患に対してチーム医療を行っており、今後もさらに増える予定です。

当院を受診された方には必要に応じて複数の診療科が結集し、さまざまな議論をしながら患者さんにとって適切な診療を行います。患者さんから頼られる存在を目指し、これからも安全で質の高い医療を提供し、医学の発展に寄与できるよう努力してまいります。



詳しくはこちらから▶

2024年10月現在

診療クラスター一覧		
IBD（炎症性腸疾患）センター	メモリーセンター	周産期・小児医療センター
母斑症センター	プレストセンター	リプロダクションセンター
痛み診療センター	睡眠センター	骨転移診療センター
消化器センター	頭蓋底センター	アレルギーセンター
呼吸器センター	臓器移植センター	循環器センター
小児頭蓋顔面（クラニオ）センター	性分化疾患（DSD）センター	糖尿病先制医療センター
脳卒中センター	遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）センター	側弯症診療センター
腸管機能リハビリテーションセンター	血管腫・血管奇形センター	リンパ浮腫診療センター
パーキンソン病センター	ロボット支援手術センター	大血管浸潤腫瘍治療センター
メンタルヘルス・リエゾンセンター	聴覚センター	ニューロモデュレーションセンター
スポーツ＆メディカルフィットネスセンター		

Information

新たに開始した自由診療の紹介ページを公開しました

3号館の3階フロアにて新たに開始した自由診療（メディカルフィットネス・PRP療法、赤ちゃんの頭のかたち外来、美容医療、運動麻痺治療、がんゲノム外来）について、当院のウェブサイトにて新たに紹介ページを公開しました。また、院内各所のラックには、自由診療についてのフライヤー（チラシ）も配架しています。ご興味のある方は、相談も承っております。ぜひ積極的にお問い合わせください。



お問い合わせ

3号館3Y 外来受付
03-5363-3858

詳しくはこちらから▲

患者サロン

がん相談支援センターでは「患者サロン」を定期的に開催しています。毎回、テーマに合わせて講義、交流会の時間を設け、スタッフ・参加者同士での情報交換を行っています。2024年度は、対面・オンラインでのハイブリッド開催を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。最新の情報は、下記QRコードをご確認ください。

第3回 2024年12月16日（月）
「アビランスケア（がん治療による外見変化へのケア）」
⇒乳がん看護認定看護師、アビランスケア業者からの情報提供を予定しています
第4回 2025年3月7日（金）
「仕事とがん治療の両立」
⇒社会保険労務士（派遣先：東京都社会保険労務士会）からの情報提供を予定しています

お問い合わせ

慶應義塾大学病院
がん相談支援センター
03-5363-3285

詳しくはこちらから▶



マイナンバーカードの健康保険証利用について

2024年12月2日をもって健康保険証の新規発行が終了します。当院においても、マイナ保険証を基本とする保険確認の仕組みに移行をしています。病院にお越しの際は、毎回マイナンバーカードをご持参いただき、1号館、2号館、3号館各所に設置している顔認証端末で10～20秒程度の画面手続きをしていただきますようお願いいたします。マイナ保険証を利用することで、下記のメリットがあります。

- ① 過去の医療情報（お薬や特定健診等）を医師にスムーズに共有することができます。
- ② 手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除されます。
- ③ マイナポータルで確定申告時に医療費控除が簡単にできます。

詳しくは厚労省のウェブサイトもご参照ください。



詳しくはこちらから▶



アンケートにご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。



COLUMN

医療の安全と質向上に向けた表彰制度（医療安全管理部）



病院では業務上の小さなほころびが大きな事故につながる可能性があります。その一方で、ささやかな工夫の積み重ねが質の向上につながります。当院は、医療の安全や質向上に向けた日々の努力や工夫を大切に、そういった取り組みを行った個人や団体を「医療安全貢献賞」「Good Job賞」として表彰して職員の意識向上に努めています。

2023年度は、個人としては、医師3名、診療放射線技師2名、看護師1名、ナースアシスタント1名を、部署としては、放射線技術室（表彰理由…検査報告の迅速な対応や、事故防止のための実践型研修の実施）、虐待防止委員会（児童・周産期・DV・高齢者・障害者領域での継続的取り組み）を表彰しました。当院は今後も医療安全文化の醸成に取り組んでまいります。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 8時40分～12時00分、13時00分～16時00分

面会時間 ※面会は医療上必要な場合に制限させていただいております。
詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。

休診日 日曜日、第1・3土曜日/国民の祝日・休日/年末年始(12月30日～1月4日)/
2025年3月29日（土）

2025年2月11日（火・祝）、3月20日（木・祝）は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

